



企画展

描かれた仏たち

あや絵作家 川崎是空

2019
10/12日 ▶ 12/27金

開館時間 平日 AM10:00~PM6:30
土・日・祝 AM10:00~PM5:00
休館日 月曜日(祝日の場合はその翌日)、
祝日の翌日
入場料 無料

川崎是空「不動明王」



企画展

描かれた仏たち

日本画家 田中嘉三

2019
10/12土 ▶ 12/27金

開館時間 平日 AM10:00~PM6:30
土・日・祝 AM10:00~PM5:00
休館日 月曜日(祝日の場合はその翌日)、
祝日の翌日
入場料 無料

田中嘉三「大仏殿炎上」

描かれた仏たち

日本画家 田中嘉三 清澄感漂う仏画を描く



「一字金輪仏」(スケッチ)



たなか かぞう 田中 嘉三 (1909-1967)

明治42年笠間町(現・笠間市)に生まれる。大正12年木村武山に師事。同14年第2回茨展初入選。昭和4年第14回日本美術院試作展に初入選。同10年茨城会館開館記念茨城美術展にて三等賞受賞。同12年再興第24回院展に初入選(以降17回入選)。同22年「常土社」「茨城美術会」結成。奥村土牛に師事。同23年再興第33回院展にて院賞首席受賞(翌年奨励賞受賞、院友に推挙)。県展準備委員に推挙(同25年委員に推挙)。同25年第3回県展にて文部大臣賞受賞。同42年逝去。同53年遺族により田中嘉三記念館(笠間市芸術の村)設立。

日本画家・田中嘉三は、明治42年に現在の笠間市に生まれた。幼少のころから絵に親しみ、14歳から同郷の日本美術院同人・木村武山に日本画を学び、武山の逝去後は奥村土牛に師事。昭和4年の第14回日本美術院試作展、同12年の再興第24回日本美術院展(院展)に初入選を果たしてからは院展を主な発表の場として活躍、昭和23年の再興第33回院展に出品した「一字金輪仏」は院賞首席を受賞した。そのひたむきな創作姿勢から生み出される作品は洗練された画面に穏やかな雰囲気感を漂わせ、多くの人に安らぎを与えた。しかし、さらなる円熟を期待される中、昭和42年、春の院展に「胎蔵諸尊」を出品したのち、病により58歳でその生涯を閉じた。



「八部衆」



「憤怒像」

厳粛で清澄な空気感漂う日本画を描いた田中嘉三と独創的で華麗な彩色を放つあや絵を制作した川崎是空の仏画作品を展示し、二つの技法で描かれた仏たちを紹介します。

染色作家 川崎是空 華麗な彩色放つ「あや絵」を制作



「聖観音」



かわさき ぜくう 川崎 是空 (1922-2014)

大正11年石川県羽咋郡押水町(現・宝達志水町)に生まれる。昭和12年京都西陣織図案見習いとして中井英三に師事。同23年師とともに東京へ出て、着物染色の道を選ぶ。同30年東京都手描友禅染色協同組合設立に努める。同49年染色村建設にあたり水海道市坂手町(現・常総市)へ移住。同60年あや絵で仏画の制作を始める。以後、東京青山画廊、郷里石川県押水町、北九州西日本工業倶楽部等で仏画あや絵展を開催。平成2年三笠宮邸にあや絵作品を献上。IAC展 郵政大臣賞、白峰展 芸術選賞を受賞。同10年あや絵美術館を水海道市坂手町に開館。同26年逝去。

着物染色作家の川崎是空(本名 一與四)は、大正11年、石川県に生まれた。京都西陣織図案見習いを経て昭和23年に上京し、着物染色の道を選んだ。東京在住の染色家たちによって現在の常総市坂手町に水海道染色村の設立が計画されると、昭和49年の先発隊12世帯の一人として移住し、以後この地で染色作家として創作活動を続けた。自身が考案した「あや絵」は、佐賀錦の白生地を図に従って染色し、それを裁断してパネルに貼り合わせて制作した絵画で、照明や見る角度によって様々な雰囲気感を醸し出し、独特の立体感を表現する。染色の技術を発展させ、約30年にわたって自らが創作した「あや絵」の美を追求し続けた川崎は、平成26年7月、92歳の天寿を全うした。



「四天王」



「孔雀明王」